

愛知・大毛池田遺跡

- 1 所在地 愛知県一宮市大毛、葉栗郡木曾川町
- 2 調査期間 一九九四年(平6)四月～一九九五年三月
- 3 発掘機関 (財)愛知県埋蔵文化財センター
- 4 調査担当者 杉浦 茂・伊藤秀紀・樋上 昇ほか
- 5 遺跡の種類 水田跡・集落跡・居館跡
- 6 遺跡の年代 古墳時代前期～戦国時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(岐阜・名古屋北部)

大毛池田遺跡は一宮市北西部に位置し、遺跡の北西約4kmの地点で東から流れてきた木曾川が大きく折れたのち南流する。遺跡はその屈曲部左岸域に形成された標高9m前後の自然堤防及び後背湿地にかけて展開する、古墳～戦国時代に関する複合遺跡である。

大毛池田遺跡の調査は、東海北陸自動車道建設に伴う事前調査として、愛知県教育委員会より委託を受け

(財)愛知県埋蔵文化財センターが一九九三年度から実施した。調査面積は約四万㎡に及び、洪水により埋没した古墳時代前期～中期の小区画水田遺構が調査区ほぼ全域で確認された。このほか、古墳時代末～平安時代前期の間に掘削された幅五～一〇m深さ一・五～二mの大溝数条と、これに前後して展開した竪穴住居が数棟単位で検出された。中世前期の遺構では調査域東辺にかけて一二世紀後半～一三世紀を中心とした井戸、区画溝などの遺構の展開する屋敷地区画が認められた。また一九九四年度調査では、戦国期の、方一町規模の居館外郭を構成すると思われる幅三m深さ一・五m前後の区画溝を検出した。

今回報告する木簡は、その区画溝の埋没後に掘削された一二・五×一〇mの方形池の下方より、石製五輪塔(火輪・風空輪)・古瀬戸壺類・土師器・陶磁器類・漆塗碗などともに出土した。遺構の位置は方一町区画溝の北西隅にあたり、これと接する区画溝の内側にも溝による小規模な区画があり、出土遺物の傾向でみるかぎり宗教的なやや特異な空間を構成している。出土木簡は「天文八年」(一五三九)の紀年銘を有し、居館跡出土遺物の年代の下限とほぼ整合する。居館の廃絶時期を示すほか、居館の内部空間を復原する上で、なんらかの宗教施設存在を窺わせる興味深い資料である。

8 木簡の釈文・内容

(1) ・×来日光月光遍照菩薩摩訶薩幽靈引導
往生淨刹

・
×^{〔廻カ〕}路 夫修惟者功德聚乘

×^{〔所以カ〕}放

×^{〔命カ〕}自然化生矣刻彫之魂醫王本誓無誤送幽魂於覺□^{〔天文八年三月廿二日孝子等敬立〕}乃□法界拔濟而已

〔

(451)×63×2 019

木簡は、上部が欠損しているものの墨痕は両面とも比較的鮮明である。良好な遺存環境に恵まれたこともあるが、木簡が長く野天に晒されなかったためと思われる。すぐに埋められたか、あるいは持仏堂などの祠、屋内に置かれた可能性がある。表面「来」より上の文字は、以下の「日光月光」が薬師如来の脇侍菩薩であること、裏面「醫王」が薬師如来の別称であることより「薬師如来」と想定できる。また、裏面「自然化生」の上は「南無帰命」と推定

される。内容は、「善行」の子供達が親の四九日の仏である薬師如来にその冥福を祈願したものである。薬師如来は確かに十三仏中の四九日の仏であるが、これは初七日から四九日までの七日ごとの法要にそれぞれの仏に冥福を祈って作られる「七宝塔婆」とは性格が異なり、父親あるいはこの一族が特別に薬師如来に対する信仰を持っていたのかもしれない。

9 関係文献

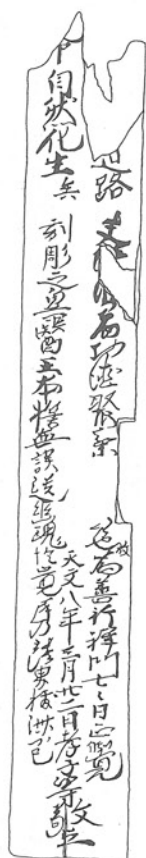
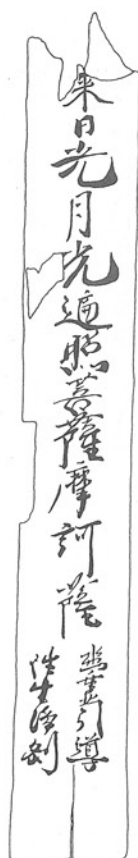
〔財愛知県埋蔵文化財センター「年報 平成六年度」

(一九九五年)

同「埋蔵文化財愛知」四〇(一九九五年)

日本考古学協会「日本考古学年報」一九九四年度版

(一九九六年)



(武部真木)